

11月7日 上映会『世界が食べられなくなる日』

☆付属資料として☆

安田節子（食政策センター・ビジョン 21）

<遺伝子組み換え（GM）食品>

- ・主なGM作物：大豆、トウモロコシ、ワタ、ナタネ
- ・日本の認可 8 作物：ダイズ、トウモロコシ、ワタ、ナタネ、ジャガイモ、テンサイ、アルファルファ、パパイヤ
- ・食用油や飼料、畜産物、加工食品原料：異性化糖、乳化剤の大豆レシチン、大豆たんぱくなどに…
- ・米国の大豆、トウモロコシ、テンサイ（サトウダイコン）の約90%がGM種
- ・豪州の綿実の約90%がGM種
- ・カナダのナタネのほとんどがGM種
- ・日本が消費する大豆、トウモロコシ、テンサイは米国から、綿実は豪州から、ナタネはカナダからなので、ほとんどがGM種といえる
- ・日本の表示（2001年4月より）→ 米国との貿易障壁を避ける不十分なGM表示
- ・食用油、醤油には表示なし。表示食品でも重量割合上位3位かつ5%以上の場合に限定
- ・遺伝子組み換え作物を原材料に使用しても、表示されない食品が多数
- ・牛や豚、鶏の飼料を経由し牛乳、卵、肉に、また食用油やしょうゆにも含まれている
- ・加工食品からGMを間接的に摂取。菓子や清涼飲料水に含まれる異性化糖（トウモロコシを糖化した安価な糖分）、コーンスターチ、大豆レシチンなど
- ・ショートニング、マーガリン（植物油を原料に水素固化 トランス脂肪酸の問題も）
- ・欧州連合の表示制度 食品全てと飼料、添加物、種子に（0.9%以上含む場合）表示義務
- ・英国、スコットランド：学校給食に禁止、レストランメニューに表示義務化

<生物特許と種子支配>

- ・生物特許が認められ可能となった種子支配
- ・アグロバイオ企業（農薬とバイオ事業）が種子ビジネスに参入
- ・特許ビジネス：特許料+特許実施料（収穫物の売上から）+特許侵害賠償金
- ・農薬企業による種苗企業の買収、寡占化が進行
- ・モンサントは遺伝子組み換え（GM）種子では90パーセント以上のシェア
- ・世界の種苗市場の支配：1位 モンサント社（27%）、2位 デュポン社（17%）、3位 シンジェンタ社（スイス）（9%）上位3社で53%を占める。7位のバイエル・クロップサイエンス社（ドイツ）は、遺伝子組み換え作物の4大メーカー
- ・特許を制する者が、種子を制する。種子を制する者が、食料を制する。食料を制する者が、世界を制する（米国外交戦略「食料は兵器」）
- ・自殺する種子：特許侵害を防ぐため？として開発された「ターミネーター・テクノロジー」
- ・ドイツ連邦議会が特許法改正、動植物の特許や種子や精子、卵子、胚の特許も禁止 2013/6

- ・ブラジル 500 万戸農家が 2%のライセンス料徴収を不当としてモンサント社提訴
- ・ロシア、中国がGM禁止 米国に 30 億ドルの損失
- ・2014年5/8 米国バーモント州がGM表示法決定
- ・2014年5/20 オレゴン州の 2つの郡がGM生産禁止

<TPPとGM>

- ・TPPは90年代からの日米構造協議の総仕上げ→TPPで法的拘束力
- ・GM表示：「不使用」の任意表示が危ない（ISD条項による提訴の可能性）
- ・表示規制強化・拡充は困難に
- ・GMは国の主権とその独立を脅かす
- ・今後GMの輸入が増大 GM鮭、クローン牛（体細胞クローンも）、現在開発中の果物（変色しないリンゴ、耐病性オレンジ、ビタミンA増量バナナ、リコピン増量パイナップルなど）、GM小麦、GM米、日本でのGM生産（外資の参入）も。種子会社の買収？
- ・知的所有権強化：国産作物との交雑で特許侵害 賠償金請求される農家
- ・「第2世代」のGM作物の開発
- ・花粉症緩和米、糖尿病治療米、ビタミンA強化米（ゴールデンライス）など
- ・従来の安全性評価「実質的同等性」は適用できないもの

<安全性>

- ・2009年5月米国環境医学会は即時販売中止を求める見解を発表、過去の動物実験の分析から、GM作物が、免疫システム、生殖や出産へ悪影響をおよぼすことが明らかに。
- ・カナダ医科大学：GM殺虫毒素が93%の妊娠女性の血液から検出。80%の女性の臍帯血からも検出。
- ・ロシア：GM大豆を食べさせた母ラットによる子ラットの死亡率51.6%（通常大豆10%）
- ・EU：加盟28カ国のうち19の国が非GMを選択。
- ・オーガニックの生産物は、地域の独立した、モンサントのような多国籍企業に依存しない、より健康的で環境に優しい自立生産と結びついている。

<遺伝子組み換え食品の避け方>

- ・食用油ではコーン・大豆・なたね・綿実以外のものを選択すること。
- ・国産で有機栽培の作物を選択すること。
- ・輸入食品やそれらを原料とする加工食品を減らし、国産を選択すること。
- ・GM非生産が日本農業の優位性 GMの国内生産を許さないこと。
- ・TPPのルールとは多国籍企業が最大の利益を得るための枠組み、参加は亡国の道。
- ・米国の食糧一元支配は安全保障を脅かす。
- ・グローバル経済に左右されない、食料、エネルギー、ケアの地域自給圏を作り上げよう！

<原発・放射能>福島4基いまだ収束せず／汚染水は4年間で75万立方メートルに！

- ・現場では現在も「原子力緊急事態宣言」が発令されたまま。
- ・海外44カ国が福島県など8県の実産物等の輸入規制。
- ・安倍政権「世界でもっとも厳格な安全審査基準をクリアした原発を再稼働させる」。
- ・世界一厳しい基準？：放射能大量放出を防ぐフィルターベントや溶けてしまった炉心を受け止めるコア・キャッチャー、全電源喪失に対する専用のバックアップ電源なし。避難対策の責任を負わない原子力規制委員会。そしてテロ対策なし。
- ・地震国日本に放射能のゴミを受け入れる場所はない。
- ・たまり続ける放射性廃棄物の処分はどうする？
- ・福島第一の近くに長大な双葉断層があり、マグニチュード8近い巨大地震を興す恐れ。
- ・200種以上の放射性物質。3号機からはプルトニウム放出。
- ・危険な放射性物質トリチウム（元素としては水素）。
- ・DNAを構成する原子は水素、炭素、酸素、窒素、りん。その水素が放射線を出す水素になる。ベータ線を出す。半減期12.3年　安全な1000分の1になるのに123年かかる。
- ・トリチウムによる催奇形性の確率は致死性ガンの確率の6倍（ローレンス・リヴァモア国立核研究所）。
- ・酸素と結合すると「トリチウム水」という放射能の水になり、水蒸気となって東日本全域の空気を漂っている。

<放射線の人体影響>どんなに微量でも影響があり、DNAを傷つけガンや突然変異を誘発

- ・福島県「県民健康調査」甲状腺がんが137名
- ・日本心不全学会　心不全患者の明らかな増加を懸念
- ・東北労災病院　白内障、網膜剥離、硝子体手術、'10年～'12年で倍増！
- ・日ごろから汚染食品を食べないように気をつけること、汚染のひどい場所からは避難・移住すること
- ・放射線に「安全線量」（これ以下なら安全＝閾値^{しきいち}）は存在しない
- ・自然放射能について　生命体は蓄える機能がない　体を通過して排泄されていく
- ・人工放射能　出るのが遅く、だんだん貯まる
- ・集合体（微粒子）を形成し、この微粒子の周囲には大変高い被曝領域どんなに微量でも影響があり、DNAを傷つけガンや突然変異を誘発
- ・内部被曝による低線量長期被ばくが怖い
- ・恒常的な低線量内部被曝によって発生する活性酸素

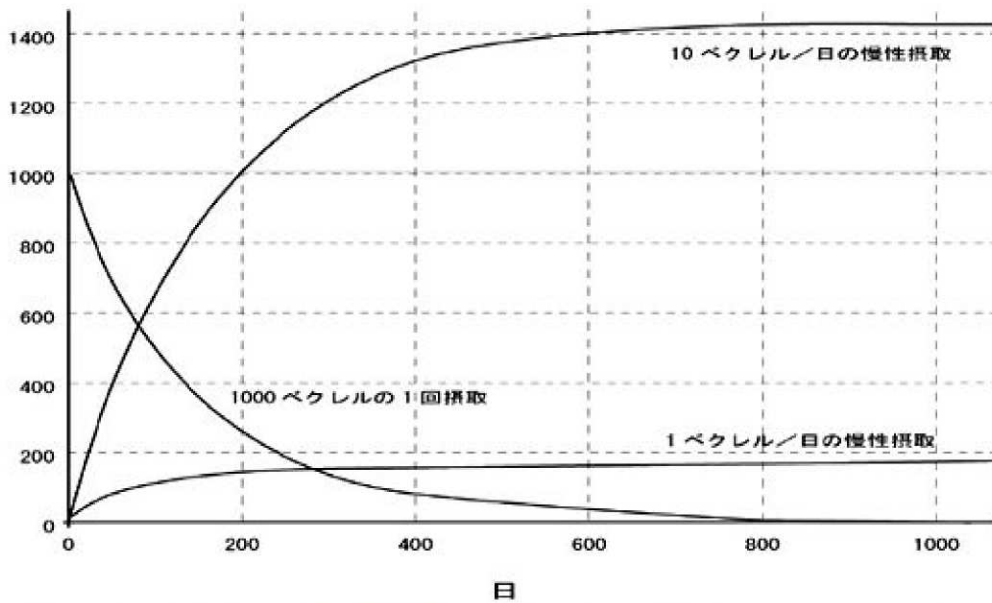


図 2.2. 1000 ベクレルのセシウム 137 を一度に摂取した場合、および 1 ベクレル および 10 ベクレルのセシウム 137 をそれぞれ 1000 日間毎日摂取した場合の全身放射能 (ベクレル) の推移 (1000 日間)

新基準 (2011 年 4 月施行)

飲料水	10 ベクレル/L
一般食品	セシウム 100 ベクレル/kg
乳児用食品と牛乳	セシウム 50 ベクレル/kg

内部被ばくだけで 1 mSv に達してしまう

●ドイツ放射線防護令「一般人の年間被ばく許容限度は 0.3 ミリシーベルト」

セシウム汚染食品の摂取制限として、乳児～青少年は 4 Bq/kg 以上、成人は 8 Bq 以上の食品を摂取しないよう推奨

●ベラルーシのバンダジェフスキー (元ゴメリ医科大学長)

セシウム 137 子どもの臓器は 50 Bq/体重 1 kg 以上の取り込みで相当の病的変化 突然死がおきる 10 Bq 程度の蓄積でも様々な身体系統、とくに心筋における代謝異常が起きる わずかでも人体に取り込むべきではないと報告

日本政府は年間被曝量 20mSv まで ok とし、無管理と決めた

チェルノブイリ法：年間 5mSv 以上は強制移住地域、1~5mSv は移住勧告地域、5~1mSv は放射線管理地域

年間 5mSv 超えは住居、仕事を用意、移住。年 1~5mSv も住居と仕事を用意したうえで移住の権利。移住にかかる費用は全て国、税金の減免、医療費の無料など。

年間 1mSv 以下でも一定の土壌汚染があれば医療費の補助

◆食生活のキーポイント

1) 取り込みを防ぐ

- ・汚染のないもの：計測で確認できるもの、非汚染地域のもの。
- ・高ミネラル食で取り込みしにくい栄養状態をめざす。

マゴワヤサシイ（マメ・ゴマ・ワカメ・ヤサイ・サカナ・シイタケ・イモ）玄米＋雑穀

カリウム多く含む食品：海藻、野菜、果物、豆類、乾物

発酵食品や漬物 発酵食品群に含まれる酵母菌、納豆菌、乳酸菌がセシウムやストロンチウムなどのキレート作用 腸管吸収を阻害

2) 排泄を促す

- ・生味噌など発酵食品、玄米、果物（ペクチンの多い）、海藻（アルギン酸）などで排泄不溶性ペクチンは腸内の有害物質を吸着させ排出する作用。

キャベツ、ダイコン、かんきつ類、リンゴ、柿 他 特に乾物が高い 切り干し大根、黄な粉、干し柿、カレー粉

3) 免疫力や抗酸化力をアップする食べもの

- ・放射能時代を生き抜くには農薬、添加物などの汚染がない生命力のある食べもので免疫力をアップ、抗酸化力のある新鮮な旬の野菜、果物を取ることが大事。
- ・免疫力を高める：被曝医師の肥田舜太郎さん「食べる時によく噛んで消化酵素をふくんだ唾液を食べ物と一緒に胃に送り込むこと、栄養素をバランスよく摂ること、早寝早起きなどの規則正しい生活などが、被曝による病気の発症を防ぐ方法だ」。

<現在も注意が必要なもの>

タケノコ、キノコ類（干しシイタケも）、山菜類、レンコン イノシシ、シカなど野生動物肉 淡水魚、底物魚介類など。

農薬、食品添加物、遺伝子組み換え、抗生物質などが残留する食品ではなく安全で生命力のある食べ物を選ぶこと！

・食政策センター・ビジョン21

<http://yasudasettsuko.com>

『ビジョン21』は、安田節子が主宰する、主に安全な食、健康、環境のためのアラート（警報）、行動に役立つための情報発信センターです。

オピニオン情報誌『いのちの講座』を発行

・NPO法人「日本有機農業研究会」 <http://www.joaa.net/>

・オールジャパン「平和と共生」 <https://www.alljapan25.com/>

原発稼働・憲法破壊・TPP参加を許さない 主権者主導の連帯運動